

## \*平成 21 年夏- 秋の躰道部の活動

前号で掲載した城北地区大会以後、医歯大躰道部は 8 月 2-6 にて、越後中里にて夏合宿を行った後、数名が広島県で行われた国際躰道親善大会に出場しました。今年は 4 年に一度の世界躰道選手権大会が広島で行われましたが、国際親善大会は惜しくも世界大会には出場できなかった選手が集って行われる大会です。もちろん外国選手も出場しています。私(柴田)は所用で観戦できませんでしたが、結果は下記の通りです。監督の宮下が超多忙な仕事の合間を縫って出場し、個人法形と団体展開(千葉県チームの一員として)優勝いたしました。本当にお疲れさまでした。

世界選手権の結果につきましては日本躰道協会ホームページ(<http://www.taido.gr.jp/index.htm>)をご覧ください。聞いた話ですが、女子実戦における外国人選手の力強さは格別のものがあるようです。

その後は、石巻のさかな祭り躰道大会や東京城西地区躰道優勝大会に参加した後、8 月末日より秋の本格シーズンに向けての練習を開始したところです。夏合宿等の詳細は、医科歯科躰道部のホームページ(<http://tmdutaido.client.jp/>)をご参照ください。

## \*大会結果

### ・国際躰道親善大会 平成21年8月7日 於 広島

戸出真宏(M5) 男子個人実戦 ベスト 8

笠原里奈(D5) 女子個人実戦 ベスト 8

渡邊聡美(N4) 女子団体実戦 優勝(参加は日本チームとフィンランドの 2 チーム)

### ・さかな祭り躰道大会 平成21年8月23日 於 石巻

笠原里奈(D5) 女子個人法形 3位、個人実戦 3位

渡邊聡美(N4) 個人法形 ベスト 8

### ・東京城西地区躰道優勝大会 平成21年9月 6 日

宮本翔平(M4) 男子個人法形 準優勝

笠原里奈(D5) 女子個人法形 4位

医科歯科女子チーム団体法形 準優勝

医科歯科チーム 団体実戦 4位

## \*平成 20 年度会計報告

収入	前年度繰り越し金	1,276,228
	50周年式典余剰金	66,997
	会費(過去年度の追加分を含む)	420,000
	計	1,763,225 円
支出	現役部員援助	200,000
	通信、印刷費合計	30,000
	宮崎先生ご尊父生花代	10,000
	全日本大会広告費	100,000
	現役部員補助(全日本出場義援金)	100,000
	振込手数料	4,920
	計	394,920 円
	翌年への繰り越し金	1,368,305 円

一昨年度は躰道部総部 50 周年式典当日に「強制徴収」したこともあり、多数の振込がありました。本年はそれに比べると少し低調な感がありました。上述のように現役部員も奮闘努力しておりますので引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。昨年度会費を収めていただいたのは次の先生方です(順不同、敬称略)。

谷口興一、中島章皓、木下一郎、戸叶正淑、渡辺三雄、林 恭弘、鈴木晴司、川蔦真人、永島実、日野恒和(2年分)、山内英樹、飯泉智弘、奥村弘一郎、佐藤良治、清水友、福本達、三壁敏雄、小川博章、鈴木格、戸塚慎一、宮崎隆、柴田俊一、佐藤準一、渡辺竜登美、役山比登志、金明培、小島雅浩、布施泰子、松本進一、青木章、堀江公仁子、塩崎智彦、戸谷剛、岡部格、南一郎、宮下宏紀、古山貴基、儘田孝、赤池智江、江川京子

### \*平成21年度仁雄会会費納入のお願い

本年度も秋となり、会費納入をお願いする季節になりました。上述のように部員は大変奮闘努力しておりますので引き続きのご援助の程、よろしくお願いいたします。

会費は例年通り医学部、歯学部卒1万円、パラメディカルおよび保健衛生学科卒5千円となっており、同封の振り込み用紙でご納入ください。

加入者名 東京医科歯科大学 仁雄会  
口座番号 00130-5- 36708

### \*秋シーズンの試合予定

本年、学生大会は例年通り綾瀬の東京武道館での開催ですが、開催日が土曜日となっています。全日本大会は東京武道館ではなく BumB 東京スポーツ文化館での開催となっています。本年の学生大会は医学部4年の宮本翔平が実行委員長として会の運営に当たっています。大変な仕事のいっぽうで、練習もしっかりやっていますので、大いに期待できると思います。皆様におかれましては、時間の都合がつかましたら大会の方へも是非足をお運びください。大会は医科歯科大学の 0B であることを告げればそのまま入場できますが、事前にご一報いただければチケットの手配、プログラムの事前発送等を致しますので事務局宛にご一報ください。

#### \* 第43回全国学生躰道優勝大会

日時 平成21年10月10日(土)  
場所 東京武道館(綾瀬)

# 団体展開、団体法形、のほか男女個人法形、実戦に出場予定。

#### \* 第43回全日本躰道選手権大会

日時 平成20年11月1日(日)  
場所 BumB 東京スポーツ文化館

# 団体展開、団体法形、および城北チームの一員として団体実戦に数名出場予定。

## \* 「熱情永遠」拡大鏡—最高師範のご講義



写真に示すのは 1979 年（昭和 54 年）戸狩における医歯大剣道部夏合宿における祝嶺正献最高師範のご指導風景です。現役部員および若手 OB にはなじみが全くないと思われませんが、当時は最高師範が自らほとんどすべての大学の夏合宿を巡回し、術技指導と昇級、昇段審査を行っていました。私もこのとき歯学部 4 年で写真には写っていませんが、この合宿に参加しています。最高師範は通常一泊二日の日程でおこしになり、初日の午後練で術技指導、一泊して翌日の午前練で審査会と言うのが通例になっていました。左写真における食事風景は初日に到着された直後の昼食と思われれます。右写真はその後の最高師範の指導風景となります。このときの指導内容はどうしても思い出せないのですが、最高師範の動きを見ると運足八方ないしは運足五連動の再検討をしているものと思われれます。「実戦競技の技は必ず運足と連動して出す事」というのがこのころから厳しく規定されるようになり、全日本大会で「運足五連動を 30 秒以内で、行わなければ出場を認めない」という規則もこの数年後には導入されています。

指導後の夕食後には最高師範を囲んで語り合うのも通例となっていました。師範はお酒がお好きなので、酔わせれば翌日の審査が甘くなるのではないかとよこしまな事を考え、実行したこともありましたが、決してそのようなことはありませんでした。最高師範はもちろん言葉には表せない威厳を漂わせてはいましたが、言葉使いは大変丁寧で、「動功五戒」に代表される四次熟語を駆使されての講義は大変印象に残っています。

当時、最高師範の本当の凄みを、残念ながらこの眼で直接みる事はなかったのですが、私より 7-8 才若いある大学の OB の方に、『自分も若くてとんがっていたので合宿で最高師範に少し口答えをした事があり、師範に「それでは思い切りかかってきなさい」といわれ、そのとおり飛びかかったところ、たちまち組み伏せられ、眼、のど、みぞおちの三カ所の急所を同時に押さえられた。それ以来、師範を心から尊敬するようになった。』という話を聞きました。年代を計算すると既に最高師範が 50 代後半の時の話と考えられ、医歯大の部員は穏やかなので決してそのような状況はありませんでしたが、是非一度それを見てみたかったと思った次第です。

